

営農だより 野菜版 10号

J A 御 殿 場 営 農 課
2021年(令和3年)7月20日発行

☆適期管理・適期防除・適期収穫で品質の良い野菜を栽培しよう!!

キャベツの栽培

キャベツは、「春まき」「夏まき」「秋まき」とまき時が3回ありますが、最も栽培しやすいのは夏まき秋収穫の作型です。ぜひ挑戦してみてください!!

1. 特徴

比較的冷涼な気候を好み、生育初期は耐暑性・耐寒性ともに強いです。結球が始まると弱くなります。28℃を超えると生育が衰え、病害の発生も多くなるので注意が必要。また、2～3℃以下ではほとんど球は肥大しません。

- ①発芽適温：20～25℃（30℃以上では発芽不良や不揃いになりやすい。）
- ②生育適温：15～20℃（5～28℃の範囲で生育し冷涼な気温を好む。）
- ③結球適温：13～20℃（28℃以上の高温や7℃以下では結球の進行が鈍る。）

2. 施肥

(1a当り)

3. 播

	資材名	施肥量	備考
堆肥	牛ふん堆肥	250kg	定植の1ヶ月前に施用
土壌改良材	畑のカルシウム	10kg	
元肥	粒状ようりん	3kg	定植の1週間前に施用
	園芸化成S550	15kg	
追肥	新FTE 燐硝安加里s280	3kg	

種・育苗

ポット育苗：ポットに3～4粒ずつ種をまき、軽く覆土して、たっぷりと水をやります。その後、本葉が2枚の頃に間引きして1本立ちにします。

セルトレイ育苗：128穴のトレイを使い種を1粒ずつまき、軽く覆土をします。本葉が2枚の頃ポットに鉢上げをします。

※トレイ育苗での軟弱徒長を防ぐため以下の2点のことに気を付けて育苗して下さい。

①灌水はできるだけ午前中に行い、日暮れ頃にはトレイがやや乾く程度にします。ハウスなどの施設内では、ベンチなどの上に置いて（トレイの下に空間を作る）育苗をするといいでしょう。

②夏まき育苗期間の後半（播種後10日～2週間目以降）はできれば屋外で育苗し、風や夜露に当てて苗をしめます。

※トレイの土は乾きやすいので、夏場は毎日灌水が必要になります。特にトレイの縁は乾きやすいので注意が必要です。

4. 定植

活着の良否がその後の生育に大きな影響を及ぼすので、定植は晴天の午前中に行います。あらかじめ定植苗に十分灌水しておき、植穴にもあらかじめたっぷりと灌水しておきます。

- ・ 畝幅 60～65 cm ・ 畝高 8～10 cm（高畝で水はけをよくし根腐れを予防します。）
- ・ 株間 30～40 cm（早生）・ 40～45 cm（中生～晩生）とする。

※株間は収穫するキャベツの玉の大きさにより調整しましょう。⑨：株間が広いと大玉になります。

5. 追肥

1回目：定植してから1週間～2週間後に畝間に肥料を施用します。併せて中耕をすることで、畑の排水性や透水性が高まり、根の発育を促して生育が促進されます。

2回目：結球開始前（2週間～20日頃）に1回目と同様の作業を行います。結球期での追肥・中耕は、根の切断により生育を遅らせ、収量・品質を低下させる為、追肥は必ず結球前に行いましょう。

6. 病害虫防除

効果の高い薬剤を紹介しますが、連用は抵抗性がついて効かなくなります。系統の違う薬剤を用意しローテーション防除を心がけましょう！！

【防除例】

※プレ

薬剤名	対象病害虫	倍率	1a当り 使用液量	使用回数	収穫前
ダコニール1000	べと病、根朽病	1,000倍	10～30ℓ	2回以内	14日前まで
ドイツボルドーA	黒腐病、べと病	500倍	10～30ℓ	—	—
※プレバソフアブル5	コナガ・アオムシ・ヨトウムシ	2,000倍	10～30ℓ	3回以内	前日まで
プレオフロアブル	コナガ・アオムシ・ヨトウムシ	1,000倍	10～30ℓ	2回以内	7日前まで

バソフアブル5は灌注処理（水やりの代わり）ができます。使用時期は育苗期後半～定植当日で1回までとなります。『散布3回、灌注1回』展着剤は入れないで下さい。

薬液：100倍 水量：1セルトレイ当り500ml

灌注処理は、セルトレイの培土に処理された薬液が根から吸収される事により、有効成分が作物全体に行き渡り効果を発揮します。

フロッコリー・カリフラワーの栽培

1. 特徴

冷涼な気候を好むため、真夏を除いた春と秋が栽培適期です。キャベツと同様に育てやすいのは夏まき・秋冬取りです。ただしカリフラワーの方が栽培の難度はやや高く、微量元素の欠乏症がでやすいので堆肥と苦土セルカを施用する。

- ①発芽適温 20～25℃（4～35℃の広い範囲で発芽可能だが最適温は25℃前後。）
- ②生育適温 15～20℃（昼夜の温度差が3～5℃程度あればよい。）
- ③花蕾の生育適温 15～18℃（平均気温が25℃以上になると生育や形状が悪くなる。）

2. 施肥

（1a 当たり）

※苦

	資材名	施肥量	備考
堆肥	牛ふん堆肥	250kg	定植の1ヶ月前に施用
土壌改良材	※苦土セルカ2号	10kg	
	畑のカルシウム	10kg	
元肥	粒状ようりん	3kg	定植の1週間前に施用
	園芸化成S550	16kg	
追肥	新FTE燐硝安加里s280	5kg	

土セルカ2号はカリフラワーの場合に施用する。

3. 播種・育苗

播種と育苗につきましてはキャベツと同様となりますので、表面を参考にして下さい。

4. 定植

定植の前にポットごと水につけて給水させておくか、定植後たっぷりと水をやります。湿害に弱いので排水の悪いところでは高畝にする。

- ・ 畝幅 60～70cm
- ・ 株間 40～45cm

5. 追肥

【早生・中早生種】

1回目：定植後1週間～2週間後。2回目：1回目の追肥後2週間～20日後。
生育期間が比較的短いので初期生育から追肥が重要となります。

【中生・晩生種】

1回目：定植後1週間～2週間後。2回目：1回目の追肥後2週間～20日後。
3～4回目：花蕾発生後すぐに施用。生育期間が長いので、肥効を途切れさせないように、生育具合を見ながら適期で施すようにします。

キャベツと同様に畝間全面に施用し、同時に「中耕」「除草」「土寄せ」を行うことで株を安定させます。また中耕により畑の排水性や透水性が高まり、根の発育を促して生育が促進されます。

6. カリフラワーの結束

カリフラワーは花蕾に日光が当たると淡黄色に着色し、白い外観を損ないます。品種にもよりますが、花蕾が7～8cmぐらいの大きさになったとき、葉を折って花蕾に乗せたり、葉を結束させたりして軟白することが必要となります。花蕾が着色するようなカリフラワーは株間を40～50cmと広めにとり、結束せずに光を当てるのが着色をよくするコツです。

7. 異常花蕾（生理障害）

ブロッコリー・カリフラワーの場合、栄養分の過不足や温度、降水量などの天候が原因で花蕾に異常が生じます。その症状が生理障害によるものか病気によるものか、見極めは難しいです。また、天候不順による生理障害への対処は難しいですが、必要な肥料成分を過不足無く調整することである程度は対処が可能です。下記の表を参考にして下さい。

ブロッコリー	カリフラワー
<p>ボトニング（早期抽苔）</p> <ul style="list-style-type: none"> 花蕾肥大に必要な葉数を確保する前に花芽分化し、結果的に小花蕾となる。 <p>原因：低温、活着不良、肥切れ、根痛み</p>	
<p>リーフィー（さし葉）</p> <ul style="list-style-type: none"> 生殖生長が途中で停止し栄養生長に逆戻りした結果、花蕾の間に葉が発生します。 <p>原因：花蕾肥大期の高温、チッソ過多</p>	
<p>不整形花</p> <ul style="list-style-type: none"> 花蕾面の蕾の発育が不均一で、花蕾面が凹凸したり、着色が不均一になります。 <p>原因：活着不良、チッソ過多、高温条件</p>	<p>ヒュージー（毛羽立ち）</p> <ul style="list-style-type: none"> 花蕾形成の比較的后期に高温条件に遭遇。極小さな苞葉が表面に出ます。 <p>原因：活着不良、チッソ過多、高温条件</p>
<p>ブラウンビーズ</p> <ul style="list-style-type: none"> 花蕾肥大期にストレスを受け、蕾が枯死し、褐変します。 <p>原因：高温・乾燥、強日照、収穫遅れ</p>	<p>ライシー</p> <ul style="list-style-type: none"> 花肥大期に個々の蕾が発達して花蕾の表面に飛び出します。 <p>原因：低温</p>
<p>キャッツアイ</p> <ul style="list-style-type: none"> 花蕾粒の不揃い。小花蕾の中央の蕾が小さく猫の目状となります。 <p>原因：ボトニングと関係が深い、花の厚さが薄くなるほど目立つ</p>	<p>ブラインド（芯止まり）</p> <ul style="list-style-type: none"> 成長点の生育が座止し、そこから苞のような葉を形成します。 <p>原因：高温条件、凍害</p>